

鳥取・浜坂焼についての報告と若干の考察 －ウツロ谷の窯跡から出土した資料を基に－

八峠 興¹

Notes of Hamasaka ware, Tottori City

Kou YATOUGE¹

はじめに

ウツロ（窰）谷の窯跡は鳥取市浜坂に所在する。この窯跡については窯体構造を解明する目的で鳥取県立博物館が発掘調査を実施し、その成果は既に報告されている（三谷 1982）。

ここでは、窯の構造や立地、文献資料との関わりについて詳細に報告されている。一方、出土遺物については整理が行われ、紹介されているものの、伝世品についての解説ほか代表的な遺物が写真で掲載されるに留まり、これまで検討・報告はなされていない。

一方、周辺地域では、鳥取市の古市遺跡（鳥取市教育福祉振興会 1999）、鳥取城糶蔵跡（鳥取市文化財団 2011）などの発掘調査のほか、日下部窯跡（八東町教

育委員会 2004）、浦富焼（鳥取陶磁器研究会 2012）などの生産遺跡の調査報告が行われ、消費遺跡では浜坂焼のほか、因久山焼、吉成焼、浦富焼、牛ノ戸焼、曳田焼、浦富焼、八上焼¹をはじめとする在地窯の製品が確認された。

そこでウツロ谷の窯跡の調査で出土した遺物、具体的には窯体内のほぼ全点と、それを補完する物原出土遺物の実測図を作成・掲載（縮尺：製品：1/4・窯道具 1/5）し、文献資料も併せ、若干の考察も含めて報告することにした。

なお、今回の調査で、ウツロ谷の窯跡は鳥取東部に存在した「浜坂焼」に一致すると確認できたため、以下浜坂焼の「ウツロ谷窯」として記述する。

第 1 表 浜坂焼年表

浜坂焼前期（北部九州系陶器か）

1823	文政 6	国産座の門番であった亀蔵を壺焼棟梁に命ずる
1825	文政 8	産物方仕方改正により御手懸止め
1826	文政 9	亀蔵罷免。焼物場焼失。網屋孫兵衛が経営するも 1827(文政十)年に返上。亀蔵三年間拝借
空白期間		

浜坂焼中期（出石系磁器・石州系陶器）

1855	安政 2	松屋文五郎の倅、善助が浜坂周辺の「かつなみ」で、白地焼物製造を願い出る
1856	安政 3	御国座。御手懸りとなる
1857	安政 4	因州分の他所仕入れを停止。「但馬出石職人七味屋平八（※ 出石焼楊子谷窯の創始者）と申す者、浜坂焼物御手始の節、御呼寄せ相成居申し候所、此節漸く道付此度差返し候…」
1858	安政 5	伯州分の他所仕入れを停止
1859	安政 6	他所仕入れを再開する。この頃、江州の職人を聘用する
1864	元治元	御手懸を廃止し、民窯になる
1866	慶應 2	三年にして廃す。治三郎あきらめず、福部村海土の土を用いて楽焼を行う

浜坂焼後期（伊賀・信楽系陶器・石州系陶器）

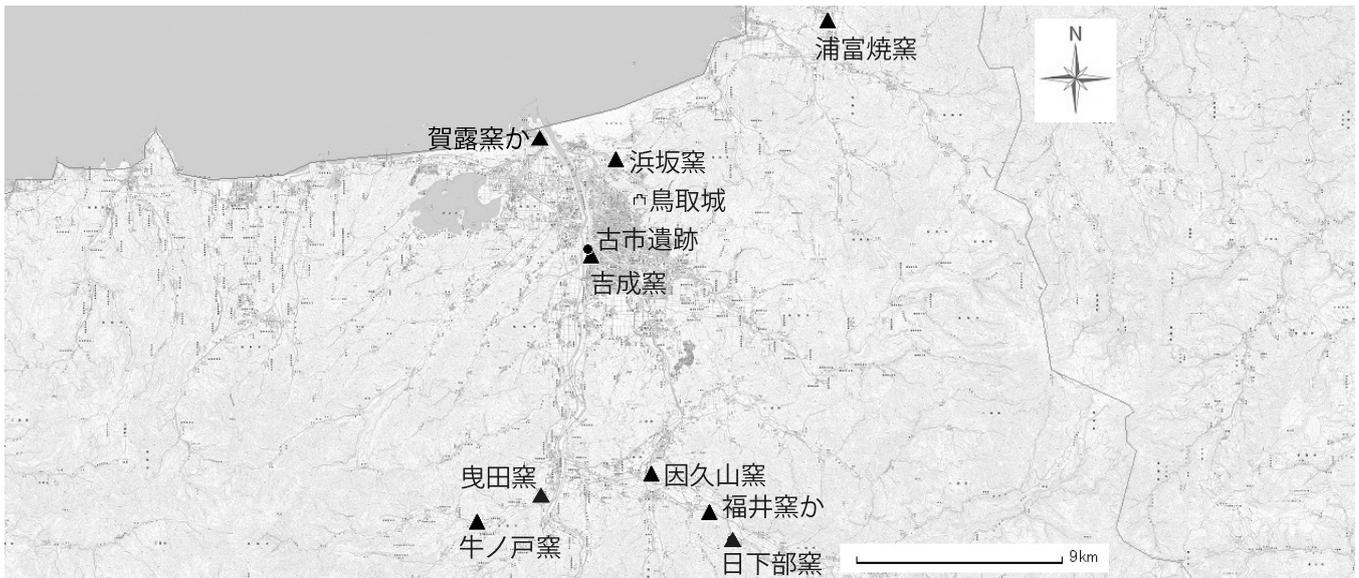
1896	明治 18	「日本窯業史総説第五巻」に記載あり
------	-------	-------------------

¹ 鳥取県埋蔵文化財センター 〒689-0151 鳥取市国府町宮下 1260 番地

Tottori Prefectural Center for Archaeological Operations, Miyanoshita 1260, Kokufu-cho, Tottori, 689-0151 Japan

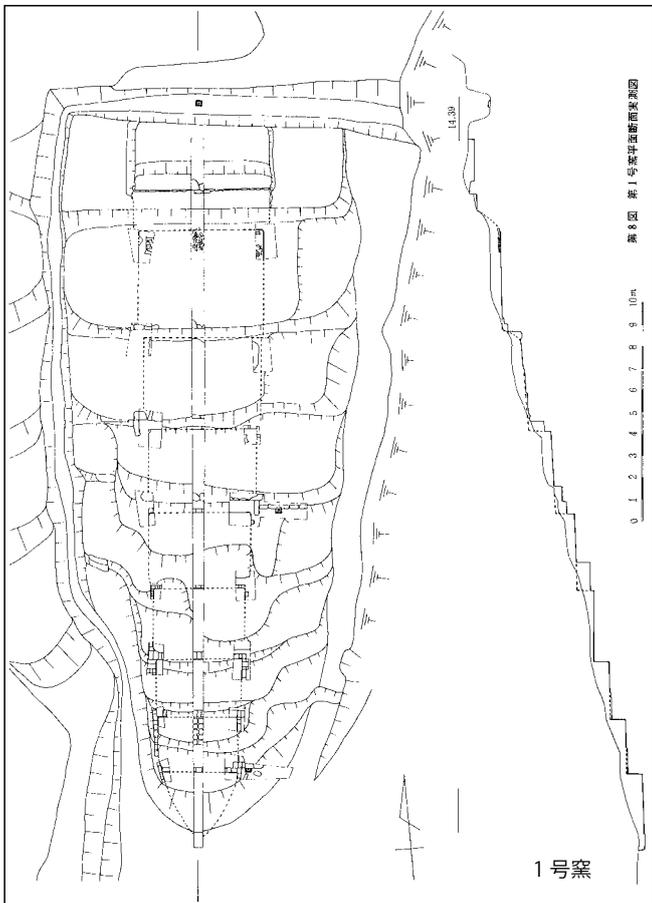
E-mail:yatougek@pref.tottori.lg.jp

[受領 Received 29 November 2012 / 受理 Accepted 12 December 2012]

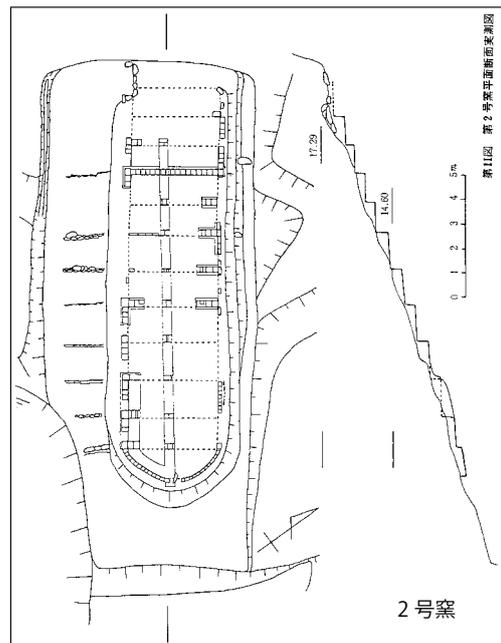


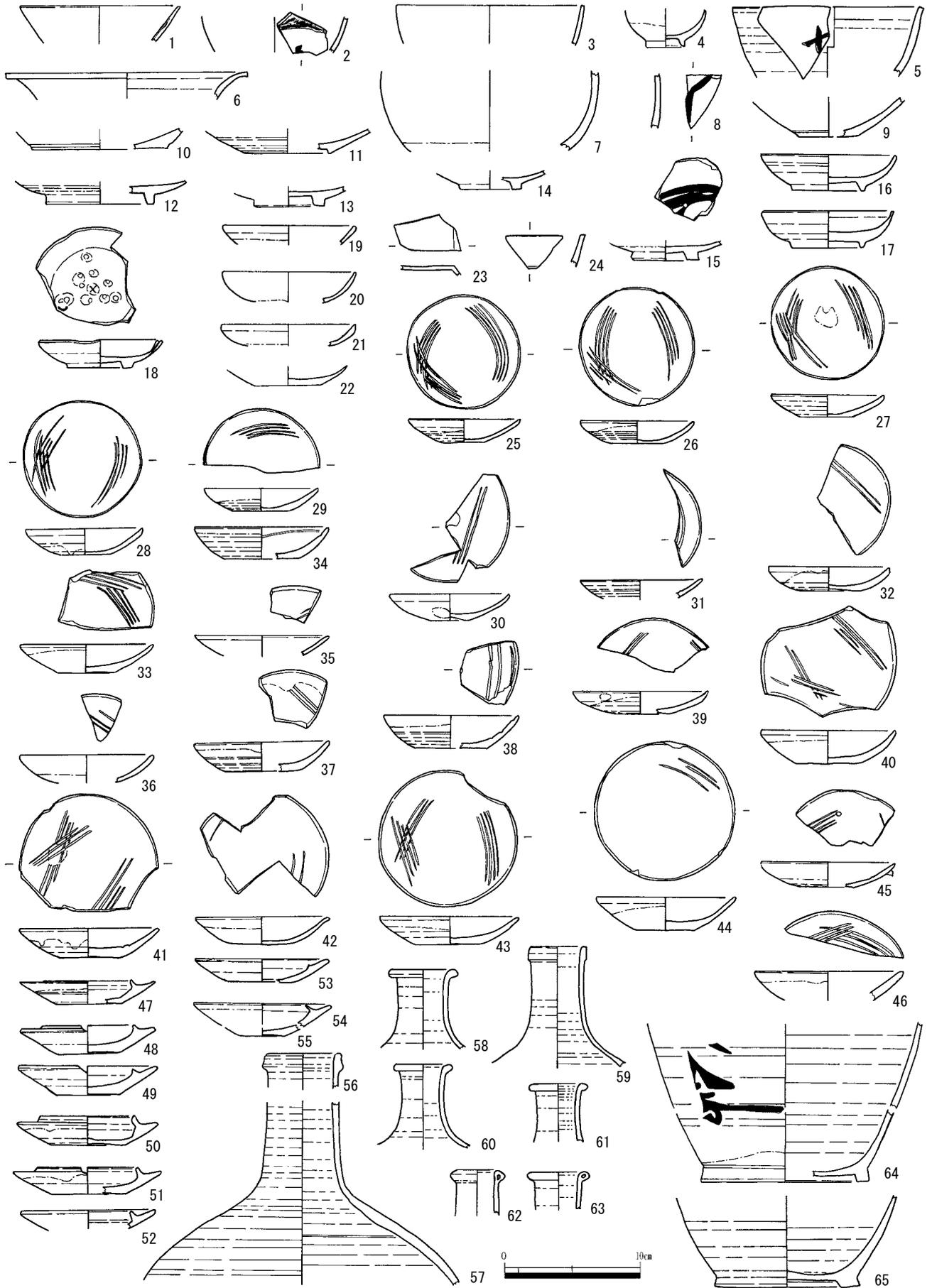
第1図 浜坂窯位置図 (1/25,000) 国土地理院発行から一部転載して作図

第2図 周辺地形図 (1/10,000)
鳥取市教育委員会 1994 から
一部転載して作図・上が北



第3図 ウツロ谷1・2号窯 (三谷 1982 から転載)





第4図 ウツロ谷1号窯出土陶器(1)